

# 中津川市地域医療実習 感想文

島根大学 4年生 白鳥博之

まずはじめに中津川市地域総合医療センターの皆様、高橋先生や安藤先生をはじめとした名古屋大学大学院医学研究科総合診療医学講座の先生方、並びに5日間実習させていただいて関わった皆様に心より感謝を申し上げます。

私は、そもそも岐阜県中津川市とは縁もゆかりもない人間で今まで作業療法士（以下OT）として他県の病院や地域で働いていました。OTの経験の中で、地域医療を担える医師になりたいと思い医学部に入り直しました。この地域医療実習は偶然参加した日本プライマリ・ケア連合学会を通じて企画を知り、すぐに飛びつき申し込みました。行く前は、不安と期待が交錯したのを覚えています。5日間は濃密で、医療・保健・介護・福祉関連の施設を見学させていただく多岐に渡る実習でした。地域総合医療センターでは保健師による健康指導（手作り栗きんとんのレシピに対する栄養指導は地域ならではの感じました）、ケアマネージャーとの定期訪問の同行、発達支援施設の予防的介入、地域密着型デイサービス（屋号で呼び合ったり、JBバンドというjazzバンドではなくジジバババンド（笑）。さらにそのバンドメンバーと利用者の距離感がとても近く、地域に根ざしたバンドメンバー皆様の素敵な活動が垣間見れました。）、老人介護施設や診療所（温泉がある診療所やスポーツジムのような施設もあり感動しました）で実習させていただきました。なんと実習だけではなく、実習の合間をみて、岩村城跡の城下町（朝ドラのロケ地）を散策したり、酒蔵（岩村醸造で雰囲気味わい）を巡ったり、馬籠宿（江戸の旅人を感じることができ）や苗木城（展望台から望む木曾川、中津川市街地は格別）に行ったり、栗きんとん（中津川発祥と初めて知りました）、五平餅（丸いタイプと円盤タイプがあり両方とも美味しい）を食べたり飲んだり中津川の文化・歴史を知るには十二分に貴重な時間を過ごせました。

私は、5日間の実習を通じて自分が思ってた以上に地域との繋がりが強い地域であること、そしてなんとと言っても、みなさんが優しく迎え入れていただいたことに感動しました。この5日間は民宿でお世話になったのですが、料理が美味しく、毎日お母さんが作るご飯も楽しみの一つでした。新鮮な野菜を使ったり、採れたてのスイカやブルーベリーは堪らなく美味しかったです。私のOTの経験も生き、その民宿で近所の方も含め健康運動体操を実施したのもいい思い出です。少しでも長く健康で笑顔でいてほしいと思った時間でした。

一方で私自身の課題や中津川が直面している課題も垣間見れました。どのように現在学んでいる医学が臨床と結びつくのかを想像しやすくなりました。プライマリ・ケアの中で住民の方々にどのような声掛けであったり、対応が最良なのか、各々が持っているillunessを解釈し、diseaseと向き合わなければならないかといったことを考えさせていただきました。今後の医学の勉強に役立てたいと思います。また、診療所によっては毎日医師がいるわけではない状況で限りがある医療機器の資源の中、見落としはいけない病気を診断し、治療しなければならない医師確保が急務であることも目の当たりに感じました。医師だけでなく看護師やリハビリテーションの療法士などのコメディカルスタッフの人材確保や山間部であるために住民の診療所までのアクセスが気軽ではなかったり、どのように市民の健康を考えていくかというマインドも社会情勢や制度のことなど幅広い知識が必要だということも再確認しました。今後も見聞を広げていきたいと思っています。

そして最後に、あっという間の5日間でしたが、このような実りのある実習ができたのも中津川市地域医療センターで医学生を担当してくださった佐藤さんのお陰だと思っています。中津川市を縁の地にできてうれしく思います。本当にありがとうございました。